

視 察 報 告 書

報告者 甲斐 高之

○周南市 「周南市水素利活用計画」について

基本目標に①水素の利活用促進に向けた環境の整備、②水素の利活用による低炭素・省エネ・災害に強いまちづくりの推進、③水素関連ビジネスの創出と市内企業の連携・競争力の強化の3点を掲げ、基本指標として、直近の燃料電池自動車の生産計画を踏まえて、3段階に分け、指標を設定し推進している。基本施策として、①水素サプライチェーンの構築、②水素ステーションを核とした地域づくりモデルの構築、③水素関連産業等に関する人材育成・事業所支援の充実、④市民・企業等への普及・啓発事業の強化の4点に取り組んでいる。特に、水素ステーションを核とした地域づくりモデルの構築では、「水素ステーション周辺モデル」「観光地モデル」「都市部モデル」としてエリアごとに具体的な内容を明示し取り組みをすすめている点は、本市においても参考となる事例であると思われる。先進的な取り組みの多くは、国からの補助金を活用していることを考えると、継続した事業の展開には、国の今後の動向が大いに影響してくると思われる。水素学習室での研修、水素ステーションの現地視察を行うなど充実した研修調査を行うことができ、本市の今後の取り組みに参考となる視察となりました。

○和歌山市 「移住・定住に関する支援制度」について

「和歌山市移住支援金」、「わかやま市型移住支援金」、「転入型三世同居・近居促進補助金」などを中心に和歌山市が推進している移住・定住に関する各種支援制度の研修を行いました。その中で注目すべきところは、移住定住戦略課の事業として、「知ってもらおう」「体験してもらおう」「移住してもらおう」「受入体制の構築」といった4つの段階を明確にして、具体的に事業を展開している点である。わかりやすい明確な言葉で事業を整理しているので、行政内部でも、市民にも事業の進捗状況等がわかりやすく浸透しているのではないかとと思われる。特に、「体験してもらおう」の中で、「トライアルスクール」や「トライアルワーク」など、まさに体験してもらおうための各種支援のメニューを準備し、そこに「トライアル和歌山市活動費支援金」を創設し、後押しをしようとしている施策など、常に創意工夫と試行錯誤を繰り返しながら事業を進めている点は、本市においても活かしていく手法だと感じました。関西圏に近い和歌山市が、あえて移住者のターゲットを関東圏に限定したのかなど、支援事業のポイントとなることに対して、研修内容だけではなく実際に現地視察を行ったことで、私自身が実感できました。「ワンストップパーソン」等、支援策を支える大切な事業内容や人材育成が必要になってくることなど、多くの学びを得ることができました。